

下水道事業会計

1 事業の実績

(1) 業務概括

本年度は、汚水事業では、生活排水処理基本構想を改定し、下水道整備区域の見直しの方針を決定したとともに、前年度同様、未普及地域の汚水管渠布設事業、施設の老朽化対策及び耐震化を実施した。

雨水事業では、豪雨による浸水被害の対策として、雨水幹線及び雨水貯留施設の工事等に取り組んだ。

財政面では、下水道収益（下水道使用料）は前年度と比較して増加しているが、維持管理に係る費用や企業債の未償還残高も増加しており、今後も非常に厳しい経営環境が続くと予測される。

施設及び業務実績は、次表のとおりである。

区 分	令和5年度	令和4年度	増 減 数	増減率 (%)
行政区域内人口 (人) A	300,516	301,612	△1,096	△0.4
処理区域内人口 (人) B	264,689	264,225	464	0.2
水洗化済人口 (人) C	232,755	232,099	656	0.3
普及率 (対人口) (%) B/A	88.1	87.6	0.5	
水洗化率 (%) C/B	87.9	87.8	0.1	
全体計画面積 (ha) D	6,481	6,481	0	0
処理区域面積 (ha) E	5,560	5,518	42	0.8
普及率 (対面積) (%) E/D	85.8	85.1	0.7	
管渠総延長 (km)	1,420	1,406	14	1.0
職員数 (人)	50	50	0	0
※()内は短時間勤務職員数で外数	(3)	(3)	(0)	
現有処理能力 (m ³ /日) F	118,000	118,000	0	0
現在晴天時平均処理水量 (m ³ /日) G	70,720	70,939	△219	△0.3
現在最大処理水量 (m ³ /日)	92,978	84,232	8,746	10.4
施設利用率 (%) G/F	59.9	60.1	△0.2	

(備考) 上記表中、令和4年度の現在晴天時平均処理水量の数値は、令和4年度公営企業決算審査意見書に記載した数値から、修正している。

(2) 処理人口及び普及率等の主な増減の内容

処理区域内人口は、毎年度増加を続け、本年度も前年度比464人(0.2%)の伸びとなっている。普及率(対人口)は、行政区域内人口の減少と処理区域内人口の増加により、前年度より0.5ポイント上昇して88.1%である。

処理区域面積は、市全体の計画面積6,481haに対して5,560haで、前年度比42ha(0.8%)増加している。普及率(対面積)は、前年度より0.7ポイント上昇して85.8%である。

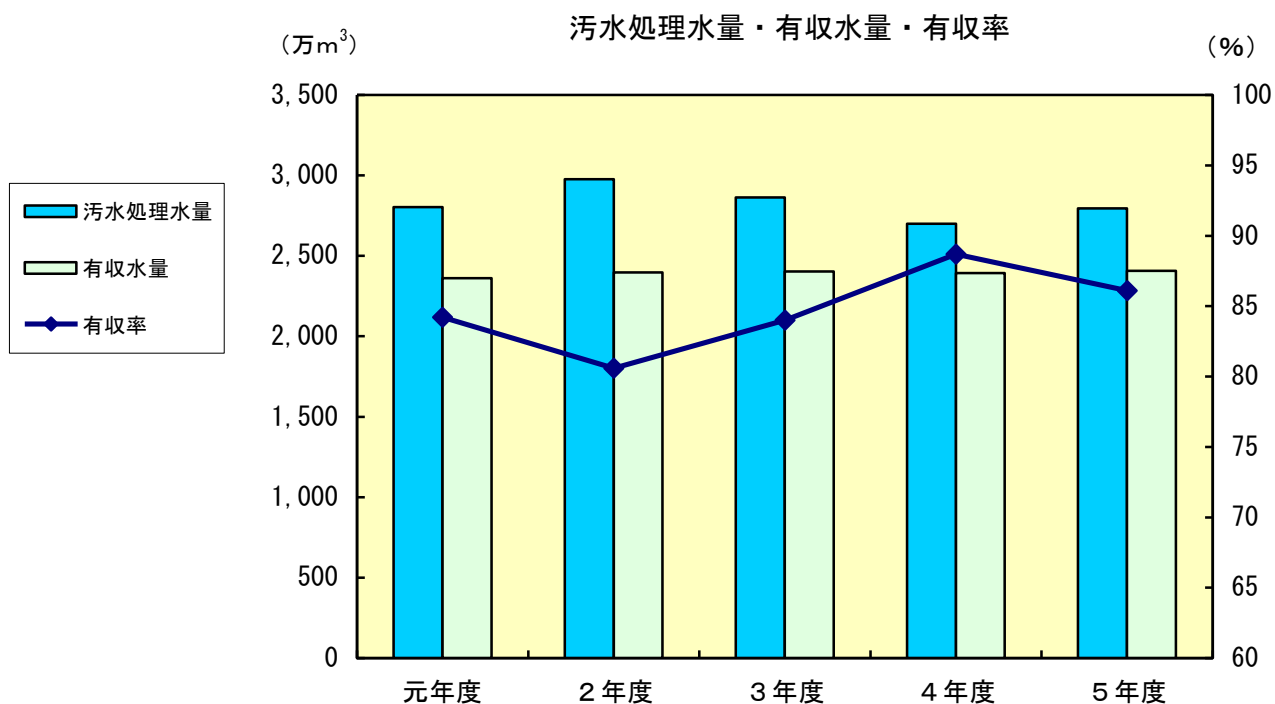
管渠総延長は、前年度比14km(1.0%)増加して1,420kmとなっている。

施設利用率は、施設の平均的な稼働状況を示すものである。本年度は、前年度から0.2ポイント低下して59.9%となっている。低下した理由は、平均処理水量が減少したためである。

(3) 汚水処理水量、有収水量及び有収率の主な増減の内容

汚水処理水量は、前年度と比較すると、962,176 m³の増となっており、有収水量も前年度より122,892 m³増加している。有収率は、前年度から2.6ポイント低下して86.1%となっている。

なお、年間汚水処理水量、有収水量及び有収率の推移は、次表のとおりである。



(単位：m³・%)

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
汚水処理水量 A	28,030,353	29,773,506	28,631,183	27,001,148	27,963,324
有収水量 B	23,606,196	23,983,228	24,042,195	23,944,630	24,067,522
無収水量	4,424,157	5,790,278	4,588,988	3,056,518	3,895,802
有 収 率 B/A	84.2	80.6	84.0	88.7	86.1